

教育臨床心理学（担当：前田）平成22年度 冬学期 期末試験問題

受験上の注意

1. 教科書、授業中の配布資料、ノート、携帯電話、電子辞書の持込みは一切不可とする。
2. 試験時間は90分である。
3. 解答する際は問題順でなくてもかまわないが、どの問題の解答かわかるように、解答する際には問題の番号を明記すること。
4. 解答用紙の追加は認められない。与えられた用紙の範囲内で解答すること。

【問題1】ヒステリーや摂食障害のような心因性の精神疾患は時代や社会背景によって、その症状や態様が変化する。たとえば100年前の女性の場合、ヒステリーは意識消失発作や激しい全身のけいれんといった症状を示す例が多く、摂食障害という病気は極めて稀な病気だった。それが1950～1970年代には、意識消失発作や全身のけいれんといったヒステリーは減少し、不食を主な症状とする摂食障害が急増していった。さらにその後、摂食障害は過食・嘔吐をとともなうものが増えていく。このヒステリーと摂食障害の一連の態様の変化について、社会的背景と関連して論述せよ。

【問題2】学校で毎日、「ウザい」などことばによるいじめを受けた高校生が、①高血圧、②持病の糖尿病の悪化、③不眠、④胃潰瘍、⑤かぜをひきやすいといった、多彩な身体症状が現れるようになった。このことをHPA系の反応と神経系のはたらきから説明せよ。

【問題3】高校3年生のタロウ君は中学校2年生ごろから、他人の前に出ると緊張する、人が自分のことを見ているような気がするなどの症状で悩んでいる。そのような症状は、自室に1人であるときには特に現れないが、学校で教室や廊下で頻繁に現れる。高校3年生になったとき、思い切って病院に受診したら「いわゆる対人恐怖ですね。中学生、高校生にこのような症状はよく見られるから特に心配いりませんよ」と言われた。このようなタロウ君の症状について、素因ストレスモデルという考え方から説明せよ。

【問題4】家庭でネグレクトされた子どもや、かつての施設に収容された子ども（あくまでも「かつての」である。現在は見られない）は、食事は十分に与えられていても、発育が悪く体格が小さいことが多い。どうしてこのようなことが起こるのか。そのメカニズムについて、ストレス反応の観点から説明せよ。

【問題5】人間の無意図的な心理的メカニズムである防衛機制と解離について、それぞれ次の諸点を踏まえて論述せよ。①どのようなものか、②具体的な例、③意義

注意：以下のことを怠った場合には、不正行為として取り扱われることがある。

- ・ 試験中は、本人確認のため、常に学生証を机の上に置いて受験すること。
- ・ 机の上には、学生証の他、筆記用具、時計、教員から特に認められた物以外は置かないこと。
- ・ これ以外の物(筆入を含む)は見えないことのないよう籠等に収納した上で、机の中、籠の椅子または床の上に置くこと。
- ・ 携帯電話等は必ず電源を切った状態(マナーモード不可)で籠等にしまうこと。また、携帯電話等を時計や電卓の代わりに使用してはならない。
- ・ 解答用紙や計算用紙は所定の枚数を超えて取ってはならない。また、答案を提出せずに持ち帰ってはならない。
- ・ 試験監督者並びに科目担当教員の試験に関する指示に従うこと。明らかに試験に支障を来す行為は行ってはならない。